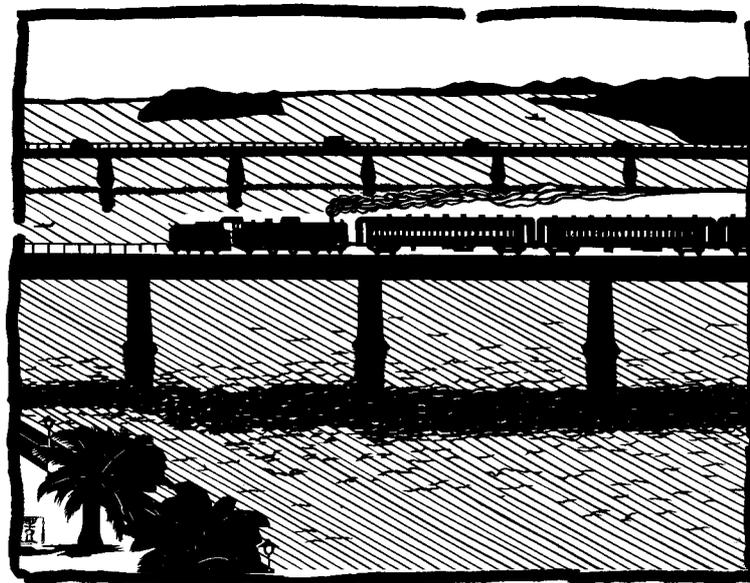


OMNIBUS

大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書室報

C	O	N	T	E	N	T	S
救急医療における病院前救護〔森田 大〕							2
ある本との出会い〔濱本由美子〕							3
出張報告〔崔 照子〕							4
出張報告〔田嶋泰子〕							6
他大学図書館訪問記(24)(兵庫医療大学図書館の巻)							7
本学教職員著作寄贈							8
お知らせ							10
邯鄲〔宮古路蘭八〕							10
図書館業務日誌							11
編集後記							12



救急医療における病院前救護

森田 大



わが国の救急医療体制は昭和30年代の交通事故による負傷者の多発を契機に整備が始まった。40年以上にわたる救急医療の歴史があるが、これまでは救命救急センターの設置など重症の傷病者を収容する医療施設などハード面での整備が中心であった。しかし、医療提供側に重点を置いた施設整備や充実のみでは片手落ちであり、受療者側の視点に立てば救急現場から収容病院へ到着するまでの間、最善の処置（病院前救護）が受けられて、はじめて救急医療体制が整備されたことになる。

昭和天皇大喪の礼に際して、欧米先進国から非難的となった病院前救護体制を建て直すべく搬送業務の充実が検討され、国家資格としての新たな医療補助職種、つまり救急救命士制度が導入された。しかし、導入後10年間は初期の目的が達成されず、医療職種としての位置づけも曖昧で、実質的に救命効果を改善させることにはならなかった。

この反省に立ち、社会情勢の変化から処置内容のさらなる高度化が論議されるとともに、病院前救護の重要性が強調されるようになった。総務省消防庁と厚労省2つの省庁の壁を越える協働作業により、対象傷病者が心停止に限られているとはいえ、医師の代行として包括的指示下における除細動の実施から始まり、ついで気管チューブを用いた挿管、アドレナリンの静脈内投与が認められたことは大きな進歩であった。誰しも突然の傷病時に最善の処置を望むのは当然のことであることから、救急救命士により救急現場あるいは搬送途上で実際に行われた医行為の質が保障されるシステムを確立することを前提に許可されたため、都道府県ごとにメディカルコントロール協議会が急遽設立されるに至った。

メディカルコントロールの導入により、救急隊員への指示・助言、現場救急活動の検証、再教育の体制が整ったことから、個々の救急隊員に医療職者の一員であるという認識が高まったこと、そのために医療知識の学習ならびに医療技術の習得を生涯続けなければならないという向上心が生じたこと、病院収容までの傷病者への救護に対するプロ意識が芽生えたことなど、救急隊員のモチベーションが高まり病院前救護の質は格段に向上していることが、医行為の事後検証を行っていて実感する。このような職種による活躍があってはじめて安心と安全ひいては質の高い救急医療が支えられていることを、日常救急隊と縁のない医師さらに市民はもっと理解しなければならない。

現在、医学的検証の対象となるのは収容病院到着までの院外心停止ならびに重症傷病者へのミクロとしての救急隊活動に限られているが、昨今おおきくマスコミにも取り上げられている医療機関の受け入れ拒否ならびに最終収容病院までの搬送時間延長などのマクロ的な問題について、二次医療圏ごとに病院前救護を含む救急医療体制の現状把握と検証の必要性が生じてきた。

一方、病院前救護の重要な側面である、非医療従事者による自動体外式除細動（public access



defibrillation)が可能となった現在、全国各地のまちかどに置かれた自動体外式除細動器を市民が用いて、完全社会復帰できた傷病者が増加している。心原性心停止の多くは、心室頻拍や心室細動を主とした重症不整脈によるものであり、これらの状態に対する治療の第1選択は電氣的除細動であり早ければ早いほど良好な結果を生じる事実について、市民への心肺蘇生講習を通じて理解と認知が進んできたものと考えられる。欧米に比べ病院前救護体制の整備が大幅に遅れてはいたが、関係者の努力により急速に追いついた状況といえる。従来あなた任せの風潮ではなく個人個人の意識のあり方が問われ、社会全体の危機管理意識がさらに高揚して行くことを期待する。惜しむらくは、医療費削減のあおりを受け、ハード面を支えていた多くの医療関係者が過重労働で職場を去らざるを得なくなったことで、肝心の医療施設での救急医療が破綻しつつあることを憂えるものである。

(もりた・ひろし 救急医療部教授)

ある本との出会い

濱本 由美子

私は中学生の時、国語の教科書の中に、とても鮮明で強烈な詩と出会った。それは智恵子抄の中の一つ、「レモン哀歌」であった。

そんなにもあなたはレモンを待つてゐた
かなしく白くあかるい死の床で
..... (略) すすしく光るレモンを今日も置かう

この詩のことばの魅力に引き込まれた不思議な感覚を未だに覚えている。思春期であった私の心はなんとも言えない気持ちになり、智恵子抄を図書館で借りて読んだ記憶が昨日のこのように鮮明である。他に「あどけない話」「千鳥と遊ぶ智恵子」など印象に残る詩がある。

高村光太郎の「智恵子抄」この本との出会いがあり、中学時代はあらゆる本を読んだ。朝から図書館に行き、一番よく読んだ頃である。2年前、新聞で高村光太郎の記事を目にして再び読んでみたいと思った。なぜ、光太郎に惹かれている自分がいるのかその当時はよくわからなかった。亡くなって50年以上経つが、今でも読むとことばに引き込まれる。この詩が智恵子と光太郎の全生涯を貫く愛の詩集であったということは、中学生の頃は知る由もなかった。ただ、読んでいくうちにあの頃の自分の気持ちが甦ってくる。詩の意味も十分にわからずそのことば一つに憧れ、頭の中で想像しとても豊かな気持ちになったことを思い出す。今思えば、ことばの美しさに魅了されていたのだろう。詩は私の心を豊かにしてくれた。短い文章ではあるが、ことばを追っていくと映像がながれそれは自然と音まで聞こえてくる。読んでいると熱中し時間を忘れてしまう。不思議なものだ。

数年前に北海道の三浦綾子記念文学館に行く機会があり、彼女がその時代に生きていた証が展示されていた。三浦文学がどのように生まれたのか、触れることが出来た。「氷点」はおそらく誰もが知っている文学であろう。映画・テレビなど何回かに渡って放映されているが、私は小説の氷点が一番好きである。休暇を利用して一気に「続氷点」まで読み終えた。旭川的情景が目には浮かんでくる。自分がその地にいるかのように本のなかに没頭していった。人物像それぞれの思いが伝わってきて本を読みながら涙していた。小説の中の文字は想像を豊かにするものであり、他人の侵入を許さない。本と私の関係は、ことばの美しさに惹かれ私なりの独自の世界を創り上げ、贅沢な時間なのである。

私の本箱には今まで私が読んだ小説が眠っている。それはその時、何を読もうとしていたのか、自分の生きてきた証にもなっている。ただ、本を読む時間を最近はずっともてずにいる。もう一度、眠っている本を読んでみたいと思う。中学時代に買って読んだ本が未だに実家の本箱に並んでいる。色褪せてはいるが、今でも十分に読めるものである。もう一度手にとって、その時代、何を考えていたのか自分探しをしてみたいこの頃である。

(はまもと・ゆみこ 看護専門学校教員)

出張報告

第14回医学図書館研究会・継続教育コースに参加して

崔 照 子

2007年8月22日～24日、長野県松本市の信州大学で日本医学図書館協会主催の第14回医学図書館研究会・継続教育コースに参加しました。日本医学図書館協会には「医学図書館員基礎研修会」、「医学図書館研究会」、「継続教育コース」の三つの教育事業があります。今回は、日頃の研究成果などの発表とディスカッションを目的とした「医学図書館研究会」と、専門職の教育を目的とした「継続教育コース」の二つが「医歯薬図書館では今 そのニーズを知る」という合同テーマで同時に開催されました。大きく変化している図書館を取り巻く環境の中、「図書館に対するニーズ」としてどのようなものがあるかを考えるきっかけを与えることがテーマにこめられていると思います。

今回の研究会では、11題の発表がありました。

1. 「本学ホームページにおける診療ガイドライン」
2. 「利用者用掲示板を使ったインフォメーションサービス案内」
3. 「電子ジャーナルの管理：Serials Solutions サービスを導入して」
4. 「臨床研究協力病院とのデータベース共同利用・高知大学総合情報センターの例」
5. 「東京慈恵会医科大学における教育・研究のための新たな学術情報基盤の構築の試み」

6. 「SOAR（信州大学学術情報オンラインシステム）と医学部図書館の役割」
7. 「病院開設時における病院図書室・済生会横浜市東部病院の場合」
8. 「医歯薬図書館における学習支援のあり方～学習環境デザイン～」
9. 「JDreamPetit、公共図書館利用状況より考察した一般市民の医療情報へのニーズ」
10. 「ICタグを使った図書管理」
11. 「新潟大学医歯学図書館の危機管理の現状」

発表後、質疑応答が行われました。それぞれに興味深く発表までかなりの準備をされたことが伺え、インターネットやWeb版データベースの普及は日常業務に深く浸透していると確信しました。

一番印象に残ったのは、最初の「本学ホームページにおける診療ガイドライン情報の整理と運用」東邦大学医学メディアセンターの岩田智美さんの発表でした。東邦大学医学メディアセンターでは、2001年3月よりホームページ上に『診療ガイドライン』ページを公開しています。主な情報源は、厚生労働省や国内学会の研究班が作成したガイドラインのリスト、および国内外のガイドラインの探し方の2種類です。利用面と作業面でそれぞれに抱える問題と対応などを公開開始から現代までを年代順にそって説明されました。年々増大していく情報量の中から常に最新の情報を掲載しなければならぬのでその努力は半端なものではなく、なかでも利用者に対するの利便性向上に対する対応はこれぞ図書館員の仕事だと実感しました。この東邦大学医学メディアセンター制作『診療ガイドライン』データベースは、大阪医科大学図書館のホームページからも見ることができます。

特別講演に信州大学卒業・明治薬科大学非常勤講師でノンフィクション作家の小林照幸氏の「トラベルメディスン（旅行薬学）の必要性を考える」という題で、お話をさせていただきました。

また、継続教育コースでは、コース1「利用者のニーズを知る」、コース2「図書館業務の外部委託を考える」というテーマで4名の講師の方を迎えて講義がありました。

コース1 「コメディカルスタッフが求める情報ニーズ 病院薬剤師を対象とした調査結果から」

平紀子氏（北海道医療大学学術情報センター室長）

「患者図書館・出会いと実感」

下原康子氏（千葉県がんセンター患者相談支援センター「にとな文庫」司書）

コース2 「千代田図書館 過去・現代・未来」

田中榮博氏（千代田区立千代田図書館館長）

「図書館業務委託の事例報告と課題」

藤則幸男氏（紀伊國屋書店ライブラリーサービス営業本部長）

どれも興味深い演題でした。特に、コース1、下原康子さんの「患者図書館・出会いと実感」の講演が心に残りました。下原さんは長年東邦大学医学図書館員として活躍され、定年退職後に千葉県がんセンター病院で司書をされています。以前は医療関係者をサポートし、今は患者に接して仕事

をされています。講演の中で「医療関係者の情報要求はその大半が明解であるのに対し患者・家族の質問は唐突で勝つ多彩です。マニュアルやQ & Aで対応できることはほとんどないし、毎日ドキドキしながら力の限り働いています。」と言われていたのが印象的でした。

今回、研究会及び継続教育に参加することができて、久しぶりに他大学の方々と話をするのが出来ました。あらためて人と人の繋がりは大事だと気づかされました。また、近年の医療を取り巻く環境は変化しており、医療従事者が求める医学情報は大きく変化しています。図書館員はその変化に敏感に対応していかなければならないと実感しました。医学情報を有意義に利用者に提供できるように努力していきたいと思えます。

(さい・てるこ 和雑誌係)

出張報告

第24回医学情報サービス研究大会に参加して

田 嶋 泰 子

平成19年8月25日(土)～8月26日(日)のあいだ、活水女子大学(長崎県)を会場として、第24回医学情報サービス研究大会が開催されました。医学情報サービス研究大会とは、医学、薬学、歯学、看護学、保健などの生命科学関連領域に係わる情報サービス関係者のために、知識の共有と交流の場を提供する研究会です。毎年、参加者による研究発表を中心に継続教育コース、企業展示など、いろいろなプログラムが盛り込まれていて、今回は全国から約160人の参加がありました。

開会式のあと長崎総合科学大学のパークガフ二氏を講師に迎え、「長崎居留地と西洋医学の発展」と題した講演がありました。氏はカナダ出身で東洋思想、比較文化論に造詣の深い方で、長崎居留地関係の研究に関する第一人者です。今回は医学情報に関する研究会ということで、長崎の史跡を示しながら、長崎と医学の発展についてのお話を伺いました。長崎は古くから世界に開かれた港町で、様々な情報や技術がはいることにより、独特な文化が形成されてきました。この地をおとずれた外国人のなかには、医学に造詣の深い人が多く、日本に新しい医学・医術をもたらし、喜ばれつつ、また逆に日本の情報を収集して祖国に持ちかえるという双方向の文化交流がしっかりと行なわれていたというお話が特に印象に残りました。

この講演のあとの研究発表では、愛知淑徳大学の山崎氏の、マラリヤ研究を例にとって、発展途上国においては深刻な問題であるのに、世界的に見てあまり研究されておらず、医学の研究には偏りがあるよさだという問題提起があり、また、愛知県立大学の木幡氏によるオーストラリアで司書が中心となって一般にもわかりやすい医学情報提供のためのプログラムを立ち上げたという事例報告などがありました。この報告は、医学情報にふれる機会の多い司書に期待されているものが大きいという話であり、積極的な情報提供の必要性を感じました。

また、2日目の継続教育では、「Web 2.0時代の新たな図書館サービス」という演題で農林水産技術会議事務局筑波事務所の林賢紀氏による講演がありました。

Web 2.0とは、「これまでの Web から進化した次世代的なソフトウェアのデザインパターンとビジネスモデルの総称」で、このような話題に疎い私が理解したところでは、「大容量の情報を送信することができる」、「Web の利用者が情報を享受するだけでなく発信者となることもできる」など、これまでの Web にさらなる技術が加わったものということです。最近よく耳にする Blog とか Wiki というのもその一部で、これらの双方向性を活用した情報収集、情報提供、利用者参加、データベースの構築、などについて実際にそれらの技術を取り入れてサービスをしている図書館の例が紹介されました。図書館にとっても Web は、大きな可能性を持ったものであり、図書館からの情報発信の手段としてうまく活用していきたいものであると感じました。

この講演のあと、出版、書誌、また病院図書室に関する研究など盛沢山な研究発表が続きました。このうち、最後の「医療系図書館業務志向の Web サイト構築：新生 LITERIS」という発表は、情報交換のための Web サイトである LITERIS のリニューアルの紹介で、Blog を取り入れたことで広く情報を共有でき、情報の更新が素早くできるようになったことが示されました。前の講演で聞いたばかりの事例とも共通することであり、興味をもちました。

この大会に参加したことで、普段の業務ではなかなか知ることのできない話題に触れることができ、おおいに刺激になりました。

今回の大会を通して「情報の相互発信」、「知の共有」といった意味の言葉がよく使われていて、図書館が図書館のみで収束するのではなく、利用者をはじめ、様々な媒体とともに発展していくことの必要性を感じました。

(たじま・やすこ 閲覧係)

他大学図書館訪問記(24) 兵庫医療大学図書館の巻

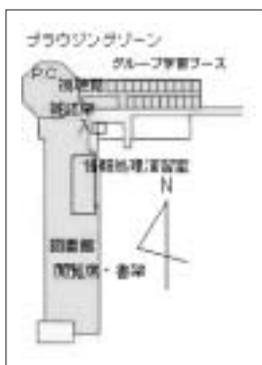


図1. 兵庫県医療大学
図書館平面図

今回は兵庫医療大学図書館を見学してきました。同校は学校法人兵庫医科大学により2007年4月に、兵庫県神戸市内の人工島ポートアイランドに兵庫医科大学の姉妹校として開学されました。学部組織は薬学部医療薬学科6年制定員150名、看護学部看護学科4年制定員100名、リハビリテーション学部理学療法科作業療法科4年制定員各40名の3学部4学科から成り、開学初年度の今年度は1年生のみが在籍しています。

図書館は事務管理棟、講堂、食堂等を含む3階建ての建物の3階部分を占めます。広さは約3,000平米で、閲覧席は約290席、書架収納容量は22万冊で現在約6,000冊の所蔵があります。



写真1．図書館（3階部分）とオクタホール

図1「兵庫医療大学平面図」の左上8角形の部分を挟んで、グループ学習ブースと、閲覧席・図書書架から構成されています。グループ学習ブースは18室あり、各室7名定員で3名以上のグループで図書館開館中に2時間以内の利用ができます。

8角形部分の1・2階はオクタホールという講堂（写真1）になっています。図書館の8角形部分はブラウジングゾーン（写真2）になっており、情報検索端末やDVD・ビデオプレーヤーが窓側にぐるりと配置されています。DVD架、新着雑誌架、製本雑誌架、新聞スタンドがこのエリアにあります。図書館の入口はこの8角形部分と閲覧席・図書書架エリアの間にあり、図書館カウンターが隣接しています。



写真2．ブラウジングゾーン

閲覧席・図書書架（写真3）には6名席が25卓、1名ずつの仕切りのあるキャレル席が96卓、8名席が1卓、グループ室が2部屋あり、パソコンが100台以上設置された情報処理演習室もあります。この閲覧席・図書書架エリアは静粛エリアとなっており、また全館飲食禁止です。

学術雑誌は冊子ではなく電子媒体を積極的に講読しようとされています。利用できる電子ジャーナルはScience Direct：Health Sciences Subject Collection、ProQuest：Nursing and Allied Health Source、SpringerLink、LWW Nursing Fixed 20、Wiley InterScience Journals、メディカルオンライン等の各コンテンツがあります。



写真3．閲覧席と図書書架

ブラウジングゾーンと閲覧席部分は窓が天井までありとても明るく、西側はすぐ海で神戸港が一望できます。図書書架は屋根の高さまで開放され明るく広々とした感じがします。図書館の建物でこれだけ景色に恵まれ、またその景色を取り入れている図書館は初めて見学させていただきました。

（宮本）

本学教職員著作寄贈

植木 實 先生（学長） 寄贈日：2007年4月26日

The International Congress of Biochemistry and Molecular Biology returns to Japan Kyoto,
Jun 18 - 23, 2006 / 早石修 等 2006 Taylor & Francis

森田 大 先生（救急医療部） 寄贈日：2007年4月26日

ウツタイン大阪プロジェクト報告書：大阪府における病院外心停止の予後調査（1998年5月～2001年4月）/心肺蘇生に関する統計基準検討委員会編集 2004.11 心肺蘇生に関する統計基準検討委員会

河野 公一 先生（衛生学・公衆衛生学） 寄贈日：2007年5月14日

在宅でも役立つ高齢者口腔ケアマニュアル/島原政司、河野公一編著 2007.4 金芳堂

医療・福祉系学生のための専門基礎科目/河野公一編集代表 2007.4 金芳堂

大阪医科大学微生物学教室 寄贈日：2007年5月14日

「生きる」を考え「生きている」を見つめる医療/山岸敦、中村桂子著；佐野浩一協力

2006.11 JT生命誌研究館

大阪医科大学医学会 寄贈日：2007年7月2日

大阪医科大学春季学術講演会：平成19年度（2007年6月13日）DVD - Video / 大阪医科大学 [編集] 2007 大阪医科大学医学会

大阪医科大学春季学術講演会：平成19年度（2007年6月13日）VHS / 大阪医科大学 [編集] 2007 大阪医科大学医学会

河野 公一 先生（衛生学・公衆衛生学） 寄贈日：2007年5月14日

病気からみた高齢者感染症ケアマニュアル/河野公一、島原政司、佐野浩一編著；有吉靖則 ほか 著 2007.7 金芳堂

症状からみた高齢者感染症介護マニュアル/河野公一、島原政司、佐野浩一編著；有吉靖則 ほか 著 2007.7 金芳堂

小林 正直 先生（救急医療部） 寄贈日：2007年7月5日

写真と動画でわかる一次救命処置：DVD付き/杉本寿、平出敦監修；大阪ライフサポート協会編集 2007.2 学習研究社

島原 政司 先生（口腔外科学） 寄贈日：2007年8月21日

在宅でも役立つ高齢者口腔ケアマニュアル/島原政司、河野公一編著；中野良信 ほか 著 2007.4 金芳堂

松本 秀雄 先生（名誉教授） 寄贈日：2007年10月23日

日本人のルーツ：血液型・海流で探る ニュートン別冊/竹内均 著] 2007.6 ニュートンプレス

小林 正直 先生（救急医療部） 寄贈日：2007年10月23日

写真と動画でわかる二次救命処置：DVD付き/小林正直編集 2007.9 学習研究社



●最近学内において盗難が多発しています。図書館内でも電子辞書や、現金の盗難が相次いでいます。

また、忘れ物も月平均5～7件発生しています。細心の注意を払って管理するようにしてください。

持ち物の管理、特に貴重品の管理にはくれぐれもお気をつけください。

●荷物の放置も目立ちます。個人情報がいっていると思われるファイルや、USBメモリなど、紛失すると大変なことになりますので注意願います。

●図書館内では飲食禁止です。飲食物は持ち込まないでください。発見した場合、カウンターでお預かりいたします。

注意に従わない場合は、退出していただく場合がありますので承知願います。

●新規受入雑誌（看護専門学校図書室）

Cancer Nursing 30（2007）+

Journal of Nursing Education 46（2007）+

Journal of Nursing Scholarship 39（2007）+

邯 鄲

宮古路 蘭 八

人生は夢の如しと今は昔のことわざにある。

ところで、昼食後の転寝（うたたね）にひと夢見た。15分寝たのか、1時間寝たのか、定かではない。ともかく不思議な夢である。

もう何年も帰っていないふるさとの、それも中学生の頃の景色が見えてくる。

私の家には内風呂がなく、毎日道後温泉の回数券をもって神の湯に通っていた。

いつものように私は神の湯の右手の湯に入るのだが、この日はなぜか左の湯に入った。

湯船にはまだ早い時間なのか数人しか入っておらず、私は体を湯で流して御影石の湯船につかった。

長いしきたりでかかり湯の順番は右から並ぶ。私の前にはひとりの見事なあごひげを生やした老人が並んでいた。

その老人がフウッと一息吐いてしゃべり出した。私に話しかけているのか、じっと前を向いてつぶやいている。

『千四百年も昔のことやけん、太子さまが摂政のころ道後温泉に長く逗留したんじゃ。

そんな時の慰みに世話をした地の娘に子ができて、何代も何代も流れて子孫が続いてきた。それがわしじゃけん。

ほがいに長く続いてきたのに、わしの代になって子はみんな戦死して、兄弟も跡がのうて死んで

しても、このまま祖の血がすたれてしまう。誠に先祖様にすまぬけん、死んでも死にきれんぞなもし。』

そうつぶやいて老人はゆっくりと湯船に顔を沈め、そのまま湯の中に消えてしまった。

湯の中にはひと筋の白髪のおごひげが浮いて、私の腕にからみつく。私はそれを取ろうとするが、取れてはからみ、またからむ。

そして目が覚めた。

目が覚めて、うっすらと寝汗をかいた額をぬぐうとひと筋の長い白髪が指にからみつく。私はドキッ、として起き上がり、いやいや妻の髪の毛だろうと思い直して枕にしていた座布団の上に正座した。

秋の細く長い雨が屋根をやさしくたたいている。遠い記憶の彼方から、この夢は四十年近く前に確かに現実にあったことのような気がした。

珍しく左の湯に入ったときのことであった。白髪のおごひげの老人がいて、父にそんな話をしていた。ひと筋の長い白髪を手繰り寄せるがごとく、記憶の果ての薄暗い灰色の脳のどこかから、そんな出来事が思い出された。

今は遠い昔の夢の話である。

(みやこじ・そのはち)

図書館業務日誌

平成19年 7月

10日(火) 電子情報セミナー館員出席(於、科学技術センター)

23日(月) 図書館合同運営委員会・P D C A委員会(於、図書館館長室)

8月

3日(金) 電子ジャーナルセミナー館員出席(於、梅田スカイビル)

13日(月)～18日(土)
時間外有人開館中止

22日(水)～24日(金)
日本医学図書館協会研究会館員出席(於、信州大学)

25日(土)～26日(日) 医学情報サービス研究会館員出席(於、長崎市)

9月

14日(金) 公私立大学図書館コンソーシアム館員出席(於、立命館大学)

25日(火) 図書館合同運営委員会・P D C A委員会(於、図書館館長室)

25日(火) 図書館とNIIの集い館員出席(於、キャンパスプラザ京都)

27日(木) 電子ジャーナルコンソーシアム館員出席(於、大阪大学)

10月

4日(木)～5日(金)
Lvzシステムアップ

15日(月)～16日(火)

除籍図書資料廃棄

22日(月) 図書館合同運営委員会・P D C A委員会(於、図書館館長室)

11月

9日(金) 合同シンポジウム館員出席(於、兵庫医療大学)

26日(月) 図書館合同運営委員会・P D C A委員会(於、図書館館長室)

30日(金) 日本医学図書館協会近畿地区例会館員出席(於、大阪体育大学)

12月

25日(火) 図書館合同運営委員会・P D C A委員会(於、図書館館長室)

編 集 後 記

今回の巻頭言は森田大教授に救急医療関連の記事をお願いしました。図書館職員の見学・研修の成果も加えております。なお、表紙のカットは今回から職員OBの鈴木豊明氏に「切絵」をお願いしました。

法人の財政状況が厳しい中、毎年値上がりする雑誌等タイトル数を確保するため、限られた予算の中で利用者にいかにサービスを提供していくかが問われています。われわれは2008年も様々な工夫と効率化を図りながら、よりよい図書館運営を行ってまいります。

皆様からの投稿記事を歓迎いたします。OMNIBUS に対するご意見もお寄せ願います。

(門田)

OMNIBUS「大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書室報」

No.32号 2007年12月14日 発行

編集・発行 大阪医科大学図書館

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL (072) 683-1221

(内線2799, 2621)

印刷 大日本印刷株式会社